

事業報告

教員免許状更新講習（選択18時間）

「教科指導や学級経営に生かす体験活動の指導」



令和3年8月18日（水）～20日（金）

【参加者】小・中学校教職員 7名

【場所】国立磐梯青少年交流の家

○事業趣旨

今日の社会的環境、児童の現状、発達段階を踏まえ、体験活動の意義と必要性、教育的効果を理解する。

また、実技等を通して教員に求められるコミュニケーション能力や自然体験活動の指導方法を身につけるとともに、指導力の向上を図る。

○活動日程

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
8/18 (水)				受付	開講式	講義①	昼食 休憩	講義②	休憩	講義・演習①	休憩	夕食 休憩	講義・演習②-①	入浴・自己研修 天体観測		就寝準備	消灯
8/19 (木)	起床	朝食・準備	講義③	休憩	講義④	昼食 休憩	実習①		実習②		移動 休憩	講義・演習②-②	入浴・自己研修		就寝準備	消灯	
8/20 (金)	起床	朝食 整理	準備 重点 点検	履修認定 試験	閉講式	解散											

○受講者内訳

対象	男性	女性	計
小学校	1	3	4
中学校	2	1	3
高等学校	0	0	0
特別支援学校	0	0	0
合計	3	4	7

領域	内容と形態	時間	講師
体験活動に関する理解	講義①「学校教育と体験活動」 学校現場における体験活動や発達段階に応じた体験活動のあり方について理解する。	1.5	会津坂下町教育委員会 教育長 鈴木 茂雄
	講義③「体験活動のもつ教育的意義」 体験活動が子どもたちへ及ぼす教育効果について学ぶ。	1.5	福島大学 教育推進機構 特任准教授 前川 直哉
	講義②「体験活動と集団宿泊」 体験活動の現状と課題、次期学習指導要領のねらいに応じた体験活動プログラムの作成の仕方や内容について理解する。	1.5	国立磐梯青少年交流の家 所長 福士 夏樹
教育の課題に関する理解	講義・演習①「自然体験活動の教育効果とプロセス」 キャンプ等の自然体験活動がソーシャルニースを抱える児童・生徒への影響とその要因について理解する。	2	新潟医療福祉大学健康科学部 健康スポーツ学科 講師 吉松 梓
	講義・演習②「体験活動を通じた人間関係作り」 よりよい人間関係を構築するための有効な手法について理解する。	3	国立磐梯青少年交流の家 職員
	講義④「野外活動と安全管理」 野外活動を行う上で必要な安全管理や安全指導、安全教育について理解する。	1.5	国立磐梯青少年交流の家 研修指導員 大竹 力
	実習①「体験活動指導技術Ⅰ～ハイキング・自然散策～」 集団登山・ハイキングを行う際の指導法や安全管理について理解する。	1.5	国立磐梯青少年交流の家 研修指導員 大竹 力
	実習②「体験活動指導技術Ⅱ～防災野外炊飯～」 野外炊飯を安全に実施するための指導法や、防災炊飯について理解する。	4	国立磐梯青少年交流の家 企画指導専門職
履修認定試験		1.5	



○活動トピックス

3名の外部講師と所長・研修指導員、企画指導専門職により、表の日程・内容で講義や演習を行った。

各講師からは、五感によるコミュニケーションの大切さや実践事例、体験談を交えた自然体験活動の意義や有用性についてわかりやすく講義していただいた。また、「振り返り」の大切さについても講義していただき、受講者は自校での取り組み方について考えていた。

自然散策の実習では、施設の周辺コースを散策し植物や動物など自然に関する知識、自然の良さや注意点を山道の歩き方や安全面での留意点などを具体的に学ぶことができた。

野外炊飯ではリスクマネジメント演習を行った後、安全管理に重点を置きながら班員と協力してカレー作りに取り組んだ。羽釜でご飯もおいしく炊き上がり、野外で食べるカレーライスを満喫した。

体験活動を通じた人間関係作りでは、コロナ過でもできる体を使った楽しいレクリエーションや仲間づくりを意識した実習や講義を通して互いの意見の上手な伝え方などコミュニケーションの取り方を学んだ。受講者からは「学級作りや人間関係作りにすぐに役立たせたい。」「体験活動の重要性を再確認できた。」等の感想があった。

○成果と課題

<成果>

- 体験活動の法的根拠と位置付け、意義や必要性についての理解を深めることができた。実践報告も聞くことができ、体験学習における自校の課題や教育課程などをふまえて振り返ることができた。
- 受講者は、様々な事例から体験活動の意義について詳しく学ぶことができ、自校における教科指導や学級経営に生かす自信につなげることができた。
- 受講者は、自然散策や野外炊飯などの野外活動を実際に体験し、実施の際の留意点や指導法について改めて学ぶよい機会となった。

<課題>

- コロナ禍という影響もあり、受講者が少なかった。広報を早めに行い、学校や教育事務所へ受講案内を直接メールで送るなど、広報に工夫を凝らして受講者を募集していく必要がある。

